

加茂暁星ルネサンス計画

(中期計画)

令和7年4月

学校法人 加茂暁星学園

注) ルネサンス……………「再生」「復活」などを意味し、加茂暁星学園の持続的発展への期待を込めたものです。

I 建学の精神

業学一如

「学は業のためにあり、業また学でなければならぬのである」

(創設者 にしむらだいかん 西村大串)

【業学一如：ぎょうがくいちによ】

本学園の創設者、西村大串は大正9年9月(1920年)、加茂朝学校を設立。その説明会において「学は業のためにあり、業また学でなければならぬのである。この朝学校なるものは、普通の学校とはその趣を異にして一心に只だ身を学問にゆだねる事のできない人たちが只だわずかなる朝の時間に読書修養を志すのである。未だ惰眠を貪っている鶏鳴四時をつぐる時、嚴冬丈なす雪ふみわけて登校することは勿論困難なことには相違ない。朝学校は自ら真を求人々の人格の修養場である。」と語り経済的、時間的に余裕のない若者に学びの機会を与えました。

II 学園の使命

「実践的教育」と「地域に根ざした研究・地域貢献活動」を通じ、「地域の発展に貢献する人材」を育成する。

III 学園の教育目標

中期目標

加茂朝学校開学から100年、これからの100年を拓く高大一体教育をめざす

【教育・研究における重点項目】

- 加茂暁星高等学校、新潟中央短期大学、新潟経営大学の教育・研究の特色を踏まえ、一貫性・一体性のある教育に取り組む
- 学生・生徒が「大切にされている実感」、「成長した実感」を感じる面倒見の良い学校をめざす
- AI、技術革新といった時代の流れに適應した教育の促進と社会人として大切な徳育の重視

【地域貢献における重点項目】

- 私立ならではの柔軟で独自性のある取組で学生・生徒が地域に出て学び、関わり、活性化に貢献する
- 将来、地域社会または組織のそれぞれの分野においてリーダー的存在になりうる人材の育成
- 社会に開かれた学園を創造し、地域の人々と学ぶ場を形成する

IV 加茂暁星ルネサンス計画（総論）

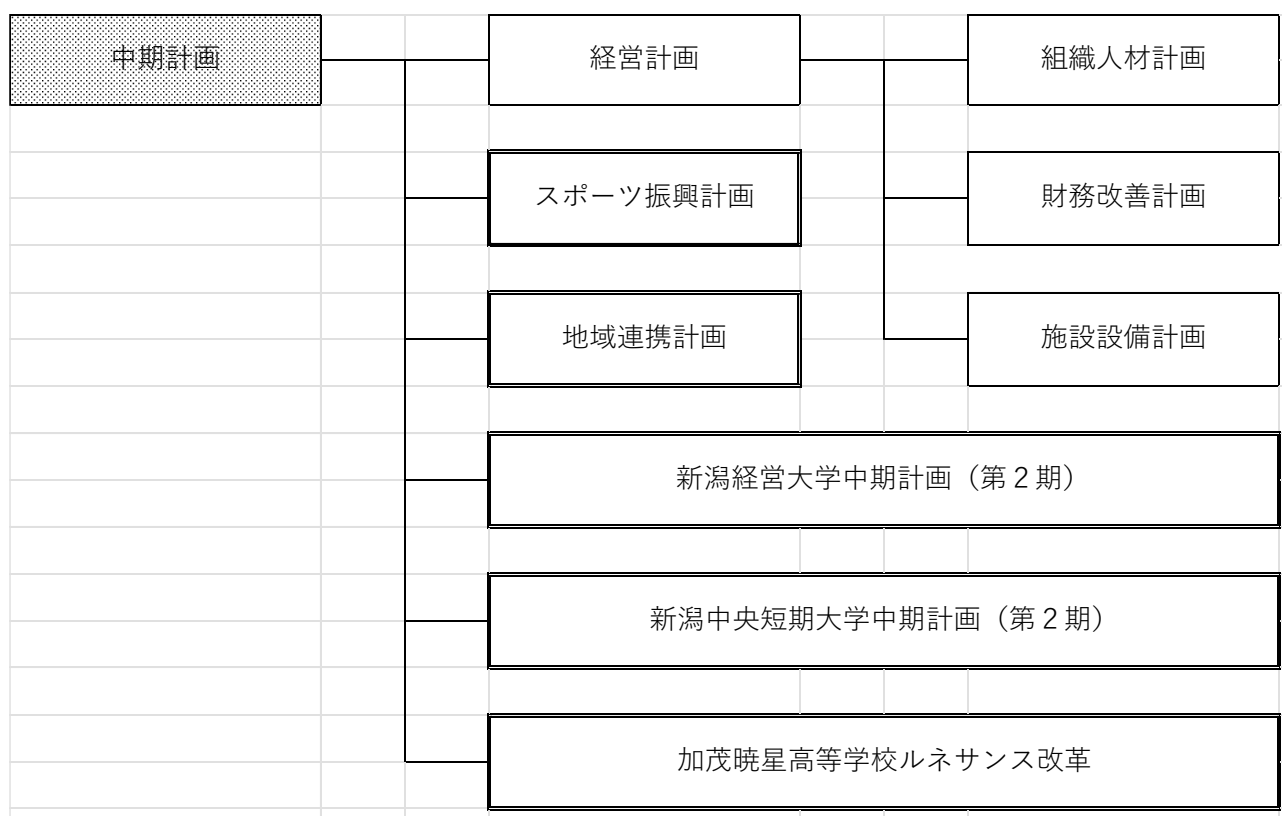
1 計画策定の趣旨

「新潟経営大学中期計画（第2期）」、「新潟中央短期大学中期計画（第2期）」、「加茂暁星高等学校ルネサンス改革」が、令和7年度を初年度として動き出すこととなる。更に、法人の「スポーツ振興計画」、「地域連携計画」を加えて、既存の「中期経営計画」と一体化した計画体系を構築する。

2 計画期間

令和7年度～令和11年度

3 計画全体の体系



V 加茂暁星ルネサンス計画（各論）

別冊のとおり。